

日本発ドイツ便り～夏の過ごし方

毎日半端なく暑い日の続く日本。気温が 30 度を超えるのも珍しくありません。

日本で「今日も 30 度を超える・・・」といえば、間違いなくネガティブな情報なのですが、ドイツ人に「このところ毎日 30 度」なんて言おうなら、羨ましがられること間違いありません。

といっても日本の夏を経験したことがない人、限定ですけどね。

ドイツでは「暑い夏」が理想。日本より、はるかに日照時間が長くて、家にはクーラーなんてない、という環境でも。です。ひとつは、湿度が低いので、木陰に入れば涼しいし、石作りのどっしりとした建物は夏でもひんやりしています。

レストランや銀行、商店など、クーラーのあるところも増えていっていますが、「クーラーなんてあんなもの体にわるい」という意見も根強く、また(一種の刷り込みですかね?)ちょっとでも太陽の光を浴びたい。という人がやっぱり多いようで、Klimatisiert: クリマティズィアト(「冷房入ってます。」)と書かれたレストラン、(わざわざ書くてことはまだ一般的ではないってことですね。クーラーはドイツ語で「Klimaanlage: クリマアンラーゲ」といいます。)室内はガラガラか観光客ばかり。あとは外のパラソルの下が大賑わい、というのは珍しくない光景です。

あと、「冷たい」とか「冷えている」飲み物というのもあまり日本ほど関心がないのか、頼まない限りは飲み物に氷を入れることはないです(もちろん、ある程度は冷えています)。

日本では一年中飲む「アイスコーヒー」もドイツでは夏だけの飲み物です。(コーヒーと言えば、基本的にはホット。もちろんアメリカ系のコーヒーショップのおかげで冷やして飲むコーヒーもずいぶん一般的にはなってきましたが・・・)

ところで、夏にドイツを旅行した人が、「あ、アイスコーヒーあるやん？」というノリで注文すると驚くのがこれ。



「Eiskaffee」(アイスカフェー)とドイツ語では書きますが、Eis+Kaffee のこと。Eis というのは「アイスクリーム」のことです。で、何がやってくるかというと、バニラアイスが 2~3 玉くらい入っ

たグラスに、ホットコーヒーを注いだもの(場合によっては上に生クリームがたっぷり)。が到着します。長いスプーンとストローがささっています。なので当然ではありますが、アイスコーヒーを氷の上に注ぐ日本の「アイスコーヒー」とは冷たさの程度が全く違うのです。でも美味しいですよ。お試しください。姉妹品の「Eisschokolade: アイスショコラーデ」(アイスココア)もお勧めです。

夏の食べ物としては、やっぱり「Eis」です。買い食いはもちろん、カフェもアイスクリームのメニューが別に用意されます。ドイツの Eis はイタリアのジェラート系でフルーツを使ったものが多いです。(もちろん、チョコレートやヴァニラなどの定番も。) だいたい 1 玉 (Kugel: クーゲルといいます。) 60 セントから 1 ユーロくらいでしょうか? (今はもうちょっと高いかも) カフェでは Eisbecher (アイスベッヒャー) これはパフェを想像すればだいたいそんな感じです。ただ、量が半端じゃないだけ。ですかね。基本はアイスクリームとフルーツと生クリーム。盛り付けは結構芸術的だったりします。名前もだいたい「南国の夢」とか「イチゴのキス」とか「バナナポート」とか……。ベタな名前が多いですね。☺
アイスクリームは 3~5 玉くらい。フルーツの量は多分私たちが考える量の倍くらい。かな。大人用にお酒を使ったものとか。スパゲッティアイスとか。(これはスパゲッティのように見えるアイス。たぶんトコロテンと同じような感じで作るんだと思います。) ダイエットアイスなるものもあります。みんな Eis 大好き!



夏の食べ物はこのくらいにして・・・。

夏の暑い日は、なるべく皆外に出て、少しでも太陽の光を浴びようとしています。

日本ではおなじみの「日傘」なんてたぶんドイツには存在しない? のでは?

公園のベンチに座って本を読んだり、芝生の上に寝転がって日光浴をしたり、この時期大きな河沿いでは、人工のビーチが登場、休暇で海辺に行けない人もここで日光浴。

自宅でも庭のある人は、水着で日光浴っていうのも珍しいことではないです。

ご飯も庭で食べるって人、結構多いです。(「今日は天気もいいし、暑いから外で食べましょう!」ってなノリですね。)



夏の風景。ベルリンの国会議事堂前の芝生。寝ころんで日光浴の人が結構います。ちなみに夏の間、ドイツでは、日の入りが遅くて、20:00 ごろまではしっかり明るいです。この写真をとったのは 19:30 ごろ。もちろんサマータイムを導入している、ということもありますが、一日が長いのはいいですね。

日本とはかなり違うドイツの夏の過ごし方。
冬が長くて寒いからその分、短い夏の太陽を少しでもたくさん浴びたい！
一種の DNA みたいなものなんではないかな？

暑さの違いは、体験しないとなかなか実感しにくいものですが、日本の暑さは「蒸し焼き」でドイツの暑さは「直火焼き」だと思います。もちろん、一番いいのは、体験してみること！
一日の長い夏—ドイツ、一度お出かけください。